

学びの共有空間を創る
ーラーニング・コモンズが目指すもの

奨励	井上 真琴【いのうえ・まこと】
奨励者紹介	同志社大学学習支援・教育開発センター事務長

主よ、あなたの御言葉のとおり
あなたの僕に恵み深くお計らいください。
確かな判断力と知識をもつように
わたしを教えてください。
わたしはあなたの戒めを信じています。

（ルカによる福音書 18章15―17節）

はじめに

皆さん、こんばんは。ただいまご紹介いただきました学習支援・教育開発センター事務長の井上真琴です。
本年4月、今出川キャンパスの新校舎「良心館」2階・3階に、約2550㎡の広さをもつ日本最大級のラーニング・コモンズを開設しました。お手元に、ラーニング・コモンズの「使い方」に焦点をあてて制作したパンフレットを配付しております。
ここ数年、大学教育改革の議論のなかで、頻繁に関係者の話題にのぼるラーニング・コモンズですが、幸運にもわたくしはこの設計デザインに携わらせていただきました。学内の多くの先生方と熱い議論を交わしたうえでリリースをしたものでありますが、すでに何千人という方々が国内はもとより、海外からも視察にみえており、世界でも第一級の学習空間との評価をいただいています。今では、平日は平均して約3500名、試験期の平日は5000名を超える利用者に使ってもらっています。
さて、このラーニング・コモンズとは何なのか。そして良心館のラーニング・コモンズがどのような意図でつくられ、またどう発展してもらいたいのか。少しの時間をいただいております。

ラーニング・コモンズとは何か

ラーニング・コモンズという言葉は、すでに大学の世界のなかではすっかり膾炙（かいしや）しています。わたくしなりに説明すれば、文字通り、「学びの広場」「学びの共有空間」を意味します。学生の皆さんの主体的かつ多様な学びを支援し、「学びの行為」を通して協同するコミュニティを形成していく学習空間を指しています。
従来は、図書館・学習室など「静寂な空間」が学びの広場の中心的役割を果たしてきました。それは、一人で黙々と勉強する静かな空間であったといえます。しかし昨今では、社会人基礎力や人間力・実践力を見据えた「多様な学び」、特に市民として成長し、社会変革に寄与する能力を磨く「社会的な学び」を体験する学習環境が重視されてきています。
一人静かに学習するだけでなく、皆が集まり長時間滞在し、他者と議論を重ね、異文化と交わり、相互に啓発しながら学ぶ空間。つまり、「他者と協同して学び、新しい文化を創造する作法を体得する空間」を目指して、ラーニング・コモンズを設置しているのです。グローバル化時代には、前例主義に陥らず、多様な文化や歴史の壁を越えて人びとと対話や議論を行い、合意を形成するコミュニケーション力を磨くことが期待されるわけですので、このような学習環境が求められるのです。
この種の学習環境は、1990年代にアメリカ・カナダ、次いでイギリスやオーストラリア等の大学で発展しました。アメリカのボストンを訪れた経験のある方は、中心地にある緑美しい広場、ボストン・コモンを思い出してください。市民に愛される憩いの場、住民や観光客の交流の場であり、そこでは公式・非公式のさまざまなイベントが開催されます。欧米では、こうしたコモンと呼ばれる広場が町で重要な役割を果たしています。コモンcommonとは「共有資源」「公共の広場」を意味する言葉であることを考えれば、分かりやすいかもしれません。そうした場所、空間を大学のなかに取り込んで、学びの共有地としているのです。
日本国内では5年ほど前から、校舎の耐震補強・改修の機会に設置する大学が増加傾向にあります。同志社大学にとって2013年は、文系学部1・2年生を今出川校地に戻し、新たな教学体制のステージを迎える年となりました。「主体的で多様な学びの体験」の保証という方針に基づき、良心館にラーニング・コモンズを設置したわけです。

ラーニング・コモンズの機能と
そこで営まれる行為

ではパンフレットを見ながら、少しの時間、具体的な紹介を行いたいと思います。（良心館ラーニング・コモンズのホームページ電子版をご覧ください）
全体コンセプトとしては、ここへ来ればおのずと学習がしたくなる「知的欲望開発空間」を標榜し、柔軟性・快適性・感覚刺激性をもった空間となるよう設計しました。そして、学生の皆さんの学習支援を行うさまざまなサポートスタッフを配置していることが特徴です。
そもそもラーニング・コモンズには、二つの機能を備えねばなりません。これを2階と3階に分けて紹介しましょう。

①2階の「クリエイティブ・コモンズ」

第一に、学生同士の相互刺激性が生まれ、緊張感のある「学びのコミュニティ」が自然と醸成される空間の仕掛けです。学習活動が相互に見え、活発なコミュニケーションを誘導するデザインを施し、創造への意欲が喚起される学習のアトリエ空間となります。
これを意識した空間が、2階の「クリエイティブ・コモンズ」です。「プレゼンテーションコート」「グローバルビレッジ」「グループワークエリア」「インフォダイナー」で構成されます。
「プレゼンテーションコート」には、複数のプロジェクターと大型スクリーンを備え、企画に合わせたフレキシブルな使用が可能です。たとえばこれまでに、円形の空間を活かして、ステージを囲む形でシンポジウムの開催や、留学経験者によるパネルを使ったポスターセッションの実施等、さまざまな活用を行いました。
多文化交流の場である「グローバルビレッジ」では、留学コーディネーターが常駐し、気軽に留学相談ができる体制を整えています。実際、多くの学生が留学に向けてアドバイスを受けにきています（約700件）。世界170局以上の海外放送を視聴しながら学習ができるスペースもあり、今後ワールドカフェ等の気軽に参加できるイベントも実施予定です。
「グループワークエリア」は、グループ作業や小セミナーに使用するスペースです。量型の台座もあることから、留学生向けの禅と茶道の実習も実施しました。
次にファミリーレストランのようなボックス席の「インフォダイナー」では、気軽にグループ学習ができるスペースで、世界の大学で共通して利用者に人気の高いエリアです。
可変性をもつ空間となるように、組合せ型の机や持ち運びのできるホワイトボード、利用しやすいAV機器等が備わり、長時間滞在して学習できるよう、飲食可能スペースの設置や心地よい家具を用意し、快適性を高めています。間仕切りを極力減らし、視認性の高いオープンスペースとすることで、他人の学行為や風景のものが「情報」となり、また自分の学習行為も他人に影響を与え、相互に刺激し合うことを想定しています。

②3階の「リサーチ・コモンズ」

3階は、チュータリング機能を有するアカデミックスキル育成空間として設置した「リサーチ・コモンズ」です。このフロアは、学生の皆さんが実践的なアカデミック・スキル（探究・調査能力）を学べるチュータリング機能を備え、学習科学の見識をもつアカデミック・インストラクターや各アシスタント・スタッフが学習方法の指導を行う体制を敷いています。新たに3名の専属教員をお迎えしたのは、そのような理由です。
2階のクリエイティブ・コモンズで議論が交わされ、発想が湧き、テーマが見えてきますが、それを具体的に形にするスキル、創造的活動をどう進めるのか、リサーチのマネジメントを支援するフロアと考えてください。
具体的なゾーニングは「アカデミックサポートエリア」「グループスタディールーム」「ワークショップブルーム」「マルチメディアラウンジ」「自習検索エリア」「プリントステーション」で構成しています。
「アカデミックサポートエリア」では、専属教員であるアカデミック・インストラクターが学習相談やレポート作成指導を行っており、春学期は約450件の相談が寄せられ、多くの利用者が訪れています。ここにアカデミック・インストラクターに常駐してもらい、学習に必要なアイデア発想法やプレゼンテーションの構成法、学術文献の読み方といった各種セミナーを実施していただいています。また、図書館の協力も得て、情報探索アシスタントも常駐してもらっており、インストラクターとのチーム・ティーチングを実践しています。
「グループスタディールーム」には、七つの部屋を用意していますが、ニーズに合わせて、いくつかの部屋を繋ぎ、ジョイント・ルームとして使用することも可能です。この空間は、丸丸通からも見えるように設計し、ラーニング・コモンズ内で学んでいる姿を見て、外にいる学生の皆さんが刺激を受けることを意図しました。
「ワークショップブルーム」には、HDカメラや各種マイク、映像のクロマキー合成の設備等を備えたスタジオ仕様の部屋があります。この設備を使って作成したデータを、映像の編

集・加工ができる「マルチメディアラウンジ」へ持って行けば、動画編集や画像制作が完結して行えます。そして「プリントステーション」では、資料の印刷・製本のほか、ポスターセッション用の大判ポスター出力にも対応しており、利用者の多様な需要に応えています。

同志社における ラーニング・ コモンズの意味

最後にどうしても、同志社でのラーニング・コモンズ設置の意味を問いかけておきたいと思います。実はラーニング・コモンズは、同志社が標榜するリベラルアーツや良心教育と深く結びついていることを意識しながら、設置を検討したものであるからです。

わたくし自身同志社大学に学びましたが、リベラルアーツとは何か、「良心教育」とは何を指すのか、学生時代からずっと悩んで考え続けてきました。

皆さんは、リベラルアーツや教養とは何かを説明できますか。同志社の「良心」「良心教育」を説明できますか。明確な定義はありません。定義がないことは、人を不安にさせますね。しかし、それは困ったことではありません。中原淳という教育工学の先生が言っています。「理念やミッションは、漠然として曖昧なものがいい。明確にすると、『理念』というより『プラン』になってしまう。曖昧さがないと、個々人が自分を入れて考える余地がなくなり、結局は理念やミッションが机上の空論になる。だから自分流に解釈を下して、自らが進む灯台として使えばよい。」（中原淳・東京大学准教授 人材組織研究室インタビューより）自分で考え続けることが大切なようです。

わたくしの場合、考え続けて自分なりのリベラルアーツ観をもったのは、30代の半ばでした。あるテレビ番組がきっかけでした。司馬遼太郎さん（有名な歴史小説家ですね、『竜馬がゆく』など著名な作品をご存じでしょうか）が「太郎の国の物語」という特集番組で、明治国家の成り立ちを説明していました。そこで彼は、明治時代に日本に駐留していた外国人高官から、深く信頼されていた人物として、政治家の副島（そえじま）種臣（たねおみ）を紹介していました。なぜ副島種臣は信頼が厚かったのでしょうか。

司馬さんは言います。「副島種臣は、いわゆる教養をひけらかす人ではなくて、自分の教養が全部、骨と肉と血を透明にするために、魂を清らかにするために教養を使う人だった。」（NHKスペシャル「太郎の国の物語／第三回 文明の誕生」）だからこそ信頼された、と。その話を聴いた瞬間、これがリベラルアーツの原点であると直感しました。

いわれなき先入観（これは色眼鏡といえるでしょう）や偏見によって囚われの身となっている自分を、深く学ぶことによって解放する学び方。自らを縛る精神の轡（くびき）から逃れ、自由になるために学ぶ。たとえば、理由もなく嫌悪感を抱いてしまう国や民族があなたにあるとしましょう。ですが、他者の文化に深く触れ、交流して内実を知れば、思い込みを脱ぎ捨て、「精神の和解」に導かれる瞬間があるはずです。先入観や偏見から毎日「また一つ自分は自由になれた」と自覚できる学び。色眼鏡をはずし、魂を透き通らせることで、知れば知るほど自由になる姿勢。それは特定領域の知識ではなく、生き方だと悟ったのです。

次に「良心」です。わたくしは、学生時代から「良心教育」の響きに食傷気味でした。「良心的価格設定」とか、「良心的な商店」とか、安っぽい表現で使われますね。大学で初めて同志社に入学した者にとって、ときには鬱陶しいくらいのものでした。これも、数年前に自分なりの答えを見つけることができました。文学部長の圓月勝博先生の書かれたエッセイに救われました。先生が言われるには、良心とは英語で言えばconscienceであり、語源は「意識」=consciousにある。下世話な話になりますが、女性の衣装で身体にぴったりと張りつきボディラインを強調するbody-conscious（通称ボディコン）を想起ください。身体の線を意識させる服です。conscienceは原義において「はっきり知る」「よく知る」ことを意味します。

また哲学の世界では、conscienceのもとになったラテン語・ギリシャ語の語源から、「共に知る」という意味が強調されます。「他者と共に知る」「神と共に知る」「自分自身と共に知る」ことを指します。

共によく知ること生まれてくるものは何でしょうか。それは共感であり、対象への慈しみであり、愛ではないかと思います。物事を知らず、私心や偏見に囚われている間は、この本質は見えてこないで共感もない。たとえば、災害に遭い困り果てた人を見て、置かれた状況を理解すれば、ボランティア活動などひとりでに救いの手を差し伸べたくなるのは必然です。そして共感を得た人は、自分が学び培った能力は、自分のために小賢しく使うのではなく、他人のために、社会のために使いたいという気持ちになるはずです。

自分の学んだことが他人の役に立ち、他人の学んだことが自分の役に立つ。「共に知る」「共に学ぶ」ことは、市民社会の基盤となる価値観となるものです。

良き市民として生きるための姿勢や覚悟を磨くために、教養や良心の本質を知る。それを学術における「学び」を通して身につける。ラーニング・コモンズが良心館のなかに設置されているのは偶然ではありません。ラーニング・コモンズの設置には、教学改革以上の思想が横たわっていることを覚えておいてほしいのです。

今後は皆さんが、ラーニング・コモンズを活用し、中味を改善し、成長させていってください。自分が社会のなかでどのような位置にあり、社会のためになにができるか、それを知ろうと努力することを、「共に知る」ことを通じて学ぶ。その目標に向けての、ささやかな仕掛けづくり、環境づくりの一つがラーニング・コモンズであることを申しあげて、わたくしの話の締めくくりにさせていただきます。ありがとうございました。

〔参考文献〕

圓月勝博「自校教育と教養ものがたり」『大学時報』328号 私立大学連盟 2009年

2013年10月29日 同志社スピリット・ウィーク秋学期
今出川火曜チャペル・アワー「奨励」記録